

Costume and Textile

服飾文化学会会報

No. 44

2022年9月

会長就任にあたって

玉田真紀

令和4年5月、長崎巖先生の後を引き継ぎ、第12期会長に就任致しました。本学会の創設以来7名の会長、歴代の理事・幹事、会員の皆様のご尽力があって、服飾文化の学際的な研究が進展し、今日に至ります。



思い起こせば、初代会長の石山彰先生より西洋服装史の講義を学生時代に受け、その後の学会参加で数々の恩師に育てて頂きました。服飾文化の貴重な資料を閲覧する機会を得、また、広い見識に触れ、教育研究の土台を養うことができました。この度、バトンを引き継ぎ後世への橋渡しをするお役目を担うこととなり、若輩者の私にとって身の引き締まる思いです。

本学会活動は、服飾文化に関わる人材育成と技術の進展、貴重な資料の発掘や評価、さらに社会的課題への提言に欠かせないものです。特にこの2年間はコロナ禍にあり、全ての活動に制約がある中、オンラインでの大会・総会、論文発表会、例会、服飾文化セミナー開催、作品審査、学会誌・会報発行は、運営に関わられた方々のご努力の賜物でした。全ての方々に感謝申し上げます。

先達と多くの研究者仲間に敬意を表し、微力ではありますが、この大切な学会活動の場が有意義で盛会となりますよう努力して参ります。

役員改選について

2021年12月より選挙管理委員会による役員改選の準備が始まり、2022年1月25日消印有効で受理した投票用紙を1月31日に開票。2022、2023年度の理事27名と監事2名が選出されました。また、第1回理事会において玉田真紀先生が会長として選出され、役員を担当は以下のように決まりました。

(選挙管理委員長 大網美代子)

2022・23(令和4・5年)度 会務担当案

担 当	氏 名	所 属
総 務	会 長	玉田真紀 尚綱学院大学
	副 会 長	内村理奈 日本女子大学
		田中淑江 共立女子大学
財 務	沢尾 絵 東京家政大学	
	中西希和 秋草学園短期大学	
事 務 局	須藤良子・中川麻子 大妻女子大学	
庶 務	石上美紀 文化学園大学(非)	
	高橋佐智子 戸板女子短期大学	
	大塚有里 東京家政大学	
総会・大会4年 総会・大会5年	大塚有里・沢尾 絵 東京家政大学	
	角田千枝 相模女子大学	
	大崎綾子・藤井裕子 女子美術大学	
服飾文化セミナー	安部智子・鈴木桜子 杉野服飾大学	
	菅野ももこ 文化学園服飾博物館	
論 文 発 表 会 4・5年	水谷みつ江・砂長谷由香 文化学園大学	
	伊藤瑞香 和洋女子大学	
研 究 例 会	長崎 巖・宮武恵子 共立女子大学	
学 会 誌 統 括	深津裕子 多摩美術大学	
学会誌編集論文編	大川知子(委員長) 実践女子大学	
	大崎綾子 女子美術大学	
	新實五穂 お茶の水女子大学	
学会誌編集作品編	藤井裕子(委員長) 女子美術大学	
	畑久美子 爱国学園短期大学	
会 報 編 集	森下あおい 滋賀県立大学	
	角田千枝 相模女子大学	
	富田弘美 東京家政学院大学	
コンソーシアム	内村理奈 日本女子大学	
	田中淑江 共立女子大学	
監 事	柳原美紗子 一般財団法人 日本綿業振興会	
	佐久間恭子 元女子美術大学	

2022（令和4）年度 第23回服飾文化学会総会・大会の報告

2022年5月21日（土）に、東京家政大学が担当校となり、第23回総会・大会を開催いたしました。実施方法の最終決定は、2月の理事会において審議が持たれ、新型コロナウイルス感染症の収束がみえないまま3年目に突入していたこともあり、対面での開催を見送り、3回目となるオンラインでのZoom開催が余儀なくされました。

当日の参加者総数は91名（申込数101名、正会員72名、非会員3名、学生会員4名、学生非会員3名、東京家政大学学生9名）とやや少なくはありましたが、オンライン開催のメリットが生かされ、全国各地からご参加頂き、またイギリス・ロンドンからご発表くださった方もいました。皆様のご協力を得ながら盛会裏に終えることができ、厚く御礼申し上げます。

そして、本学のオンライン会議・授業等のプラットフォームはWebex Meetingであるため、事務局（大妻女子大学 須藤良子理事、中川麻子理事）から全面的なご支援をいただき、事前のリハーサルも含め、Zoom開催が実現したことへの感謝の意もここに表します。



総会：PC画面上の事務局と大会開催校の様子

1. 特別講演

玉田真紀会長による開会の辞に続いて、帽子デザイナー 糸山弓子氏（東京家政大学 家政学部 服飾美術学科 元非常勤講師）による講演が行われました。

糸山氏は、1981年に渡米後、ニューヨークを拠点とし、83年にブランド「Yumiko Hats」を設立、服飾デザイナーのニューヨークコレクション用帽子制作、米国有名デパートとの取り引き、〈GIVENCY〉ニューヨーク店の帽子制作担当などのご経歴をお持ちです。日本人の帽子デザイナーとして、アメリカンヴォーグ、ニューヨークタイムズなど、世界の著名な雑誌、新聞等で紹介されるなか、88年に帰国し、代官山に帽子店をオープンされました。94年には帽子教室を開講し、後進の指導にあたられ、2022年現在、恵比寿にて活動中で、舞台、映画、テレビCM、ドラマ用の帽子を数多く手がけられています。何気なく知らずと先生の作品を拝見させていただいていると思われま

す。ご講演のテーマは、「ニューヨーク・東京 帽子作家としての活動と作品の紹介」でした。前半は、制作作品の写真とともに帽子制作の楽しさ、思い入れ、三宅一生氏（*8月5日没）、山本耀司氏、渡辺淳弥氏から依頼されたパリコレクション用帽子制作の舞台裏、エピソードなどのご説明をいただきました。芝生の成長を微調整しながら、本番用として素材に用いたというお話に制作のご苦労や工夫が垣間見え、大変興味深く視聴いたしました。また、後半には、ご自身が制作する上で刺激やインスピレーションを受けたドイツ、イギリス、フランスの各HAT MUSEUM 3館所蔵の作品、道具類等のご紹介もいただきました。コロナ渦でもあり海外への渡航がままならない現況において、多くの有意義な情報をご提供くださいました。まるで現地に足を運び、短時間で効率よく3館を巡り、見学をさせていただいているような錯覚に陥りました。

最後の質疑応答の時間には、活発な意見交換がなされ、参加者一同、「帽子」についての見聞をより一層広めることができました。後日、糸山先生から「マニアックな質問がたくさん出たことに驚きました。」というご感想をいただき、本学会が幅広い専門分野を持つ会員の集合体であることを改めて実感することとなりました。



特別講演：PC画面上の糸山弓子氏



糸山氏のオリジナル作品 抜粋

2. 口頭発表、作品発表

口頭発表は4件で、テーマは裁縫・手芸教育、裁縫雛形、レース、パジャマ、作品発表は3件で、テーマは地域資源利用、ティエリーミュグレー、コルセットで合計7件でした。いずれも大変興味深いご発表が展開されました。

先回のオンライン開催時に行っていた作品発表のスライド画像オンデマンド配信は、記載データについての心配があったため、中止とさせていただきます。今後の検討課題となっていることを申し添えます。

3. その他

オンライン開催による配信の不具合などを想定し、翌日を予備日としておりましたが、これを使用することなく、滞りなく実施し初日のみで終了することができました。オンライン配信のサポートをいただきました本学元CPSセンター関下様にも感謝いたします。

また、作品見学、情報交換会、見学会を楽しみにされていますらっしゃる方も多く存じますが、それらは対面開催が叶う今後の大会に期待させていただきます。

(大会開催校 大塚有里 沢尾絵 三友晶子)

ブラウスとワンピース



図9 左大人ブラウス
右子供ワンピース110cm前



図10 左大人ブラウス
右子供ワンピース110cm後



作品発表 野々村多慧子氏

●第23回総会・大会プログラム

5月21日(土)

- ・開会の辞 10:40 会長 玉田真紀(尚絅学院大学)
- ・特別講演 10:45~12:00 糸山弓子氏
テーマ「ニューヨーク・東京
-帽子作家としての活動と作品の紹介-

・口頭発表 13:00~14:00

A-1 座長 番場まみ 京都華頂大学
昭和時代前期の大妻学院における裁縫
-手芸教育について-博物館所蔵品をもとに
大妻女子大学(院) 卜部夏菜子

A-2 座長 田中淑江 共立女子大学
渡辺学園における裁縫雛形が教材として製作されなくな
った経緯について
東京家政大学 杉野公子

A-3 座長 菅野ももこ 文化学園服飾博物館
20世紀初頭のアメリカにおける機械レース生産の興隆
と輸入レースの流通
お茶の水女子大学(院) 三宅真未

A-4 座長 石上美紀 文化学園大学(非)
20世紀初頭イギリスにおける婦人用パジャマ
-その普及から発展の過程-
日本女子大学研究員 河原朱里

・作品発表 14:15~14:36

B-1 座長 深津裕子 多摩美術大学

地域資源を活かした衣服制作-麻織物継承の取組み-
滋賀県立大学(院) 野々村多慧子

B-2 座長 安部智子 杉野服飾大学
1988年プレタポルテコレクション ティエリーミュグ
レー作品のパターンと構造について

文化学園大学(院) 李詩言、砂長谷由香
B-3 座長 富田弘美 東京家政学院大学
1900年頃のコレットのパターンとシルエットについ
て-1880年頃のコレットとの比較-

文化学園大学 陳 徽、砂長谷由香

- ・総会 14:50~15:20
- ・閉会の辞 15:20 副会長 内村理奈(日本女子大学)

服飾文化学会
第23回総会・大会プログラム

10:40-10:45 開会の辞
10:45-12:00 特別講演
演題テーマ ニューヨーク・東京 帽子作家としての活動と作品の紹介
講師 糸山 弓子氏 帽子デザイナー・元東京家政大学専攻講師

口頭発表【発表12分、質疑3分】

1.13:00-13:15 演者 番場 まみ 京都華頂大学
昭和時代前期の大妻学院における裁縫・手芸教育について 博物館所蔵品をもとに
卜部 夏菜子 大妻女子大学(院)

2.13:15-13:30 演者 田中 淑江 共立女子大学
渡辺学園における裁縫雛形が教材として製作されなくなった経緯について
杉野 公子 杉野服飾大学

3.13:30-13:45 演者 菅野 ももこ 文化学園服飾博物館
20世紀初頭のアメリカにおける機械レース生産の興隆と輸入レースの流通
三宅 真未 お茶の水女子大学(院)

4.13:45-14:00 演者 石上 美紀 文化学園大学(非)
20世紀初頭イギリスにおける婦人用パジャマ -その普及から発展の過程-
河原 朱里 日本女子大学研究員

14:00-14:15 休憩

14:15-14:22 演者 深津 裕子 多摩美術大学
地域資源を活かした衣服制作 -麻織物継承の取組み
野々村 多慧子 服飾専攻大学(院)

2.14:22-14:29 演者 安部 智子 杉野服飾大学
1988年プレタポルテコレクション ティエリーミュグレー作品のパターンと構造について
李 詩言、砂長谷 由香 文化学園大学(院)

3.14:29-14:36 演者 富田 弘美 東京家政学院大学
1900年頃のコレットのパターンとシルエットについて -1880年頃のコレットとの比較-
陳 徽、砂長谷 由香 文化学園大学

14:36-14:50 休憩
14:50-15:20 総会
15:20 閉会の辞

2022年5月21日(土) 開催校: 東京家政大学
Zoomによるオンライン開催 参加申し込みは、当学会HPをご覧ください。

服飾文化学会 第23回総会・大会実行委員会 〒112-8502 東京都目黒区目黒1-19-1
東京家政大学 大塚 有造 / 03-6633-3346 三宅 真未
E-mail: hokoku@kaiyodai.ac.jp

ポスターデザイン
東京家政大学 富谷 智

***** 研究例会のお知らせ *****

日時: 2022年11月12日(土) 13:30~15:00(予定)
会場: 共立女子大学(予定)、状況によりハイブ
レックス型またはオンライン

講演題目: 戦国時代の戦衣の素材と仕様

-様々な実用性と工夫-

講師: 長崎 巖先生(共立女子大学 教授、共立女
子大学博物館 館長)

2022 (令和4) 年度 服飾文化セミナーの報告

2021年度より名称を新たに「服飾文化セミナー」とし、9月3日に愛知県の豊田市美術館にて、2年ぶりに対面での講演会を実施いたしました。当初オンラインでの開催も視野に入れ、開催方法を検討しましたが、現地に足を運び、直に会場や作品を鑑賞することにセミナーの意義があると考え、対面で実施いたしました。

当日は、同館にて開催中の「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」展を鑑賞したのち、会長の玉田先生より開催のご挨拶を頂戴し、展覧会を担当されたお二人の学芸員の方にご講演いただきました。

セミナーには、28名の方々がご参加くださいました。内訳は、正会員21名、学生会員2名、非会員5名(うち学生1名)です。

概要

「機能と装飾のポリフォニー 交歓するモダン」展鑑賞と講演会

〈日時〉

2022年(令和4年)9月3日(土) 13:00~16:45

〈会場〉

豊田市美術館 愛知県豊田市小坂本町8丁目5-1
最寄り駅: 愛知環状鉄道 新豊田駅 [出口1] から徒歩約11分

〈受付〉

12:30~館内講堂にて受付及び参加費をお支払いいただいた後、入館券をお渡しいたしました。

〈プログラム〉

13:00 「機能と装飾のポリフォニー」展 各自で鑑賞
15:00 開会の辞 会長 玉田真紀(尚絅学院大学)
15:05 講演「機能と装飾のポリフォニー」展について
講師: 千葉真智子氏(豊田市美術館)
廣田理紗氏(鳥根県立石見美術館)
15:45 鼎談 司会 鈴木桜子(杉野服飾大学)
16:20 質疑応答
16:45 閉会の辞 副会長 内村理奈(日本女子大学)

〈申込方法〉

申込URL: <https://bit.ly/3uEgoVd>

申込期間: 7月11日(月)~8月27日(土)

〈参加費〉 ※入館料込み

会員・非会員 3,500円

学生会員・学生非会員(大学院生、大学生) 2,000円

高校生 1,000円

中学生以下500円(参加費のみ)

講師プロフィール

千葉真智子氏(豊田市美術館 学芸員)

これまで企画担当された主な展覧会には「寺内曜子 パンゲア」豊田市美術館(愛知、2021)「岡崎乾二郎 視覚のカイソウ」豊田市美術館(愛知、2019)「切断してみる。一二人の耕平」豊田市美術館(愛知、2017)「遠隔同化 二人の耕平」「切断」のち「同化」KYOTO ART HOSTEL kumagusuku(京都、2016-2017)「ほんとのうへのツクリゴト」岡崎市旧本多忠次邸(愛知、2015)「ユーモアと飛躍 そこにふれる」岡崎市美術博物館(愛知、2013)などがあります。また、デザイン・装飾芸術に関する展覧会も企画されています。

廣田理紗氏(鳥根県立石見美術館 主任学芸員)

これまでファッションをテーマとした展覧会を多数手がけられています。これまでに企画された展覧会には「森英恵 仕事とスタイル」(2015)「コズミックワンダーと工藝ばんくす舎 お水え いわみのかみとみず」(2016)「コズミックワンダー 充溢する光」(2017)「THERIACA 服のかたち/体のかたち」(2018)「ファッション イン ジャパン 1945-2020 一流行と社会」(2020)などがあります。

展覧会と講演会

「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」展は、1910年代から1930年代にかけてのモダニズムとモダニティの流れの中で、これまで比較的個々に取り上げられてきたデザインの動きを横断し、見渡すような構成となっています。同展では、1914年の第一次世界大戦の勃発と、それによって一変した社会と人々の暮らしの中で、様々な国やアーティストが交流し共鳴しながら展開されたデザインとその空間を担う要素とし

でのファッションが紹介されています。会場にはウィーン工房をはじめ、ポワレ、ヴィオネ、シャネルの貴重な作品を鑑賞できました。

千葉氏からは、これは単に歴史を見せるための展覧会ではなく、生産と消費のサイクルという現代にも通じる問題であるというお話をいただきました。取り上げた国としては、フランス、ドイツ、オーストリア、そして日本から見たヨーロッパを中心にお話をいただきました。

廣田氏からは、会場にも展示されていました、ポール・ポワレについて、破産と成功を繰り返しながら彼の活動が服飾デザイナーとしての枠を超えて、様々なアーティストとの交流の中で展開されていたことをお話いただきました。



会場風景

鼎談

鼎談では、展覧会のテーマに込められたモダニズムへの視点について、主にウィーン工房の事例を中心に話が進められました。モダンデザインが非装飾へと向かう機能主義の考え方がある中で、装飾への眼差しが同時代的にあったことが改めて浮き彫りにされました。

加えて千葉氏、廣田氏が勤務されている美術館のコレクションについてお話をいただきました。鳥根県立石見美術館では、日本を代表するオートクチュールデザイナーである、森英恵氏の生誕地であることからファッションに特化した美術館として、これまで質の

高いコレクションを収集維持管理されてきたこと、また、作品を風化させることなく、長く維持するために、異なるテーマや異なる空間に展示する、そうすることで魅力を永続させることができるという貴重なお話をいただきました。



鼎談風景

アンケート結果

セミナーに参加された先生方からは、以下の通りお言葉をいただきました。

「ご講演を伺い、今回の展示の理解度も深まりましたし、今後の石見や庭園での展示もより興味深く鑑賞できそうです。」「企画された学芸員の方に直接お話を伺えたのが、とても良かったです。服飾史の主流では見えない面を知ることができました。」

貴重なご回答をお寄せくださり、心より御礼申し上げます。

おわりに

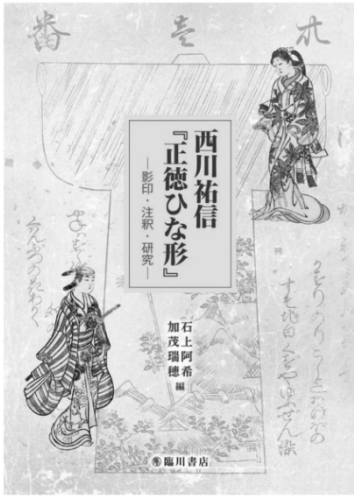
閉会の辞では、館内放送とご挨拶が重複してしまうというアクシデントに見舞われながらも、副会長の内村理奈先生のユーモア溢れるご対応によって、会場は笑いに包まれながら幕を閉じました。コロナ禍で何事もままならない日々が続きますが、健康に留意しながら、学ぶことの大切さや楽しみを探究する機会となるよう、今後も有意義なセミナーの実施に寄与したいと思います。

なお、本展は豊田市美術館での展覧会が終了した後、鳥根県立石見美術館、東京都庭園美術館へと巡回します。ぜひ足をお運びいただき、各会場で異なる空間をお楽しみください。

(服飾文化セミナー担当 菅野ももこ)

特集記事 書籍『西川祐信『正徳ひな形』—影印・注釈・研究—』紹介

石上阿希（早稲田大学）



石上阿希・加茂瑞穂編
臨川書店
2022年3月発行

現代の私たちは、江戸時代に描かれた小袖図から何を読み取ることができるだろうか。本書は、書物に記された言葉と図像を手がかりに、小袖図の背景にある染織技法や色の流行、風俗や文様の解読を試みたものである。

近世において寛文期（1661-73）から寛政期（1789-1801）まで約140年にわたって「小袖雛形本（以下「雛形本」）」と呼ばれる書物が120種ほど出版された。雛形の基本の形式は、小袖の背面図とその周りに技法、意匠、配色の指示が記されたテキストを配するというもので、多くは染物を専門とした絵師によるものだが、菱川師宣や西川祐信といった浮世絵師が手がけたものもある。

雛形本に関しては、主に服飾史・染織史において研究が進められ、基礎的な研究としては網羅的調査を行った上野佐江子氏の仕事がある。雛形本が重要な資料であるという認識はどの分野の研究でも共通している。しかしながら、実はこれまで全冊を通して翻刻・注釈が行われた雛形本は一冊もなかった。

そこで編者の石上・加茂は、西川祐信が京都の書肆・八文字屋とともに出版した『正徳ひな形』（正徳3年 [1713] 刊）を対象とした研究会を2013年にたちあげ、文学史、服飾史、芸能史、出版史など様々な分野の研究者を集めて毎月1回翻刻・注釈を行った。

祐信と八文字屋にとって『正徳ひな形』は初めての雛形本であった。絵師としての地位を確立しはじめた祐信にとっては売り出しの時期であり、それを後押しする八文字屋にとっても重要な企画である。それまで

の雛形本と一線を画すため、『正徳ひな形』は最新・流行の雛形を階層毎に分けて提案することを趣向の第一とした。全96図の雛形を、御所・御屋敷・町・けいせい・遊女・風呂屋（浴衣）・若衆・野郎の8つの階層・属性に分けて各12図を配した。各部門の冒頭にはその階層を象徴する場所を背景にして立つ人物が描かれ、小袖をまとったイメージが明確に示される。雛形の後には「紋尽」として189の紋が列挙されており、読者が各々の好みの小袖を想定するための情報提供にぬかりはない。

本書の構成は、『正徳ひな形』及び同書の大部分を使用した明治期の雛形本『四季のよそほひ』の解題、『正徳ひな形』の翻刻・注釈、コラム9本、論文3本、用語索引である。ここでは特に注釈について言及したい。

雛形本注釈の方法として一つには、従来の通り言葉に対する注を付した。主に技法・色・意匠に関わる用語を拾い上げ、同時代の辞書・事典類や井原西鶴などの浮世草子を参照に意味を検討した。特に意匠の場合は古典と関連しているものも多いため、古典文学の本文にも目を配った。また、用語には、「曙染」や「裾模様」など時代によって意味が変わるものもあるが、正徳期における意味との違いを各雛形と付き合わせて明確にし、コラムとしてまとめた。

もう一つは図像についての注である。主に（1）同時代の絵本や肉筆画、（2）『正徳ひな形』以前から同時期の雛形本、（3）現存する近世期の小袖の三つの点から図像を探した。図像と図像をつなげることで、『正徳ひな形』の前後・左右の文化との関連も浮かび上がるような注釈を目指した。

一つの雛形本を通読することで、出版年の前後数年間単位で色・技法・着装方法などを明確化できることはもちろん、本書の場合でいえば、階層や性別に対する社会的認識や制約などを考察する補助資料としての意義も提示できたと自負する。常に身に纏う「モノ」である小袖だからこそ、それを表す言葉と図像を記録した雛形本は、当時の暮らしや文化を考える上で有用な資料といえるだろう。服飾史だけではなく、文学史、風俗史など様々な研究において本書が一つの工具書として役立つことを願っている。

会計報告

①服飾文化学会 2021(令和3)年度 収支決算書 (2021年4月1日～2022年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,314,000	1,547,000	233,000	R5正6,000×1名 R4正6,000×13名、通払い3000×2名、 学3,000×1名 R2正6,000×182名、3000×2名、5000×1名、 学3,000×8名 R2正6,000×27名、学3,000×1名 H31-R1 正6,000×10名 H30正6,000×6名 H29正6,000×5名 H28正6,000×3名 H27正6,000×2名 H26正6,000×1
(2)入会費	10,000	11,500	1,500	正1,000×10名、学500×3名
(3)年間購読料	54,000	48,000	▲6,000	3,000×18件
(4)学会誌掲載料	550,000	1,179,700	629,700	Vol.3 No.2掲載料(7件) Vol.4 No.1掲載料(11件)
(5)その他	0	4,250	4,250	料子(10)、学会誌購入(3冊:3500円、送料740円)
(6)繰越金	1,048,770	1,048,770	0	
収入計 A	2,976,770	3,839,220	862,450	
支出				
(1)経費				
1)総会・大会運営費	150,000	150,000	0	うち総会運営費6260円 R3年度予算案の「総会運営費」
2)学会誌発行費	1,650,000	2,246,306	▲596,306	R2年度作品編集発行費含む
3)事務管理経費	20,000	0	20,000	
4)通信費	50,000	22,440	27,560	
5)会報発行費	180,000	112,860	67,140	会報no.42,43
6)事務用品費	60,000	41,228	18,774	
7)会議費	10,000	0	10,000	
8)交通費	20,000	0	20,000	
9)雑費	10,000	5,151	4,849	各種振込手数料
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	50,538	9,462	オンラインによる研究会・服飾文化セミナー合同開催
2)事業費B	150,000	11,998	138,002	オンラインによる論文発表会
3)事業費C	50,000	24,672	25,328	令和4年度 理事選挙費用
(3)広報費	120,000	110,352	9,648	ホームページ更新料件数増加
(4)交流費	10,000	5,000	5,000	生活科学系コンソーシアムR3年度年会費
(5)事務外部委託費	231,000	237,336	▲6,336	会員管理システムSMOOSY 2666分 2021年4月～2022年3月
支出計 B	2,771,000	3,017,879	▲246,879	
収支差額 A-B	205,770	821,341		
次年度繰越金	0	821,341		

②服飾文化学会 令和3年度 財政調整積立金収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,849,725	
総会・大会余剰金	114,515			
服飾文化セミナー余剰金	0			夏期セミナー→服飾文化セミナーに名称変更
	114,515		1,964,240	
項目	収入	支出	残高	
服飾文化基金	1,000,000			H21年度
	1,000,000		2,000,000	H22年度

③服飾文化学会 2022(令和4)年度 予算 (2022年4月1日～2023年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,368,000	1,314,000	54,000	R4年度正会員22名、学生会員19名の会費(名誉会員1名は年会費無料)
(2)入会費	10,000	10,000	0	
(3)年間購読料	54,000	54,000	0	
(4)学会誌掲載料	550,000	550,000	0	
(5)その他	0	0	0	
(6)繰越金	821,341	1,048,770	▲227,429	
財政調整積立金の取崩	0	0	0	
収入計	2,803,341	2,976,770	▲173,429	
支出				
(1)経費				
1)総会・大会運営費	150,000	150,000	0	
2)学会誌発行費	1,650,000	1,650,000	0	撮影料、英文要旨校正代、外部査読謝礼金含む
3)事務管理経費	20,000	20,000	0	R2年度より、事務外部委託SMOOSY導入
4)通信費	50,000	50,000	0	
5)会報発行費	180,000	180,000	0	
6)事務用品費	60,000	60,000	0	
7)会議費	10,000	10,000	0	
8)交通費	20,000	20,000	0	監査・理事会交通費(実費上限10,000円)を含む
9)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	60,000	0	研究会
2)事業費B	150,000	150,000	0	論文発表会
3)事業費C	0	50,000	▲50,000	R4年度は理事選挙なし
(3)広報費	150,000	120,000	30,000	HP更新・作成増、DM作成、A478 配価契約費を含む
(4)交流費	10,000	10,000	0	生活科学系コンソーシアム会費等
(5)事務外部委託費	232,188	231,000	1,188	
支出計	2,752,188	2,771,000		
収支差額	51,153	205,770		

④財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

	R3年度末残高	当期増加額	当期減少額	当期残高
財政調整積立金	1,964,240	0	0	1,964,240
服飾文化基金	2,000,000	0	0	2,000,000

* H27年度より特別会計の名称を財政調整積立金と変更

*****事務局より*****

●【新入会員】会員異動(敬称略、申込順)

正会員

- 海老名 理紗子(和洋女子大学)
- 河原 朱理(日本女子大学)
- 山岸 真美(杉野服飾大学)
- 野中 知世(杉野服飾大学)
- 元永 純代(カルチュア・コンピニエンス・クラブ株式会社)
- 野沢 さおり(文化学園大学)
- 若月 宣行(文化学園大学)

学生会員

- 李 詩言(文化学園大学)
- 野々村 多慧子(滋賀県立大学大学院博士前期課程)

年間購読会員

- ブックショップリード 吉本 洋

●退会者

- 辻 美恵子(北翔大学短期大学部)
- 田中 あゆみ(和洋女子大学)
- 八浪 美穂(文化学園大学)

◇◇◇◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇◇◇◇

<女子美アートミュージアム>

- 「柚木沙弥郎の100年-創造の軌跡-」
会期：2022年9月17日(土)～10月17日(月)
「女子美染織コレクション展Part10 きもの-江戸から明治の装い-」
会期：2022年11月9日(水)～12月10日(土)

<文化学園服飾博物館>

- 「紅白 夢の競演! -さまざまな国の“赤”と“白”-」
会期：2022年12月9日(金)～2023年2月14日(火)

<東京家政大学博物館>

- 「新収蔵資料紹介 谷中リボン」
会期：2022年9月16日(金)～2023年2月6日(月)(予定)
ご来館にあたってのお願い：https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/museum/information_covid-19.html

<島根県立石見美術館>

- 「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」(巡回展)
会期：2022年9月17日(土)～11月28日(月)

<東京都庭園美術館>

- 「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」(巡回展)
会期：2022年12月17日(土)～2023年3月5日(日)

<神戸ファッション美術館>

- 神戸ファッション都市宣言50周年記念 特別展「祝祭の景色 世界の結婚式(仮称)」
会期：2022年11月19日(土)～2023年1月29日(日)

<東京都現代美術館>

- 「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」
会期：2022年12月～2023年6月(予定)

会報 No.44：2022(令和4)年9月31日発行
編集発行人：服飾文化学会
事務局：102-8357 東京都千代田区三番町12
大妻女子大学ライフデザイン学科工芸デザイン研究室
TEL：03-5275-5738
E-mail：fukubunjim@gmail.com
URL：<http://fukushoku-bunka-gakkai.jp/>